

日本結核病学会東海支部学会

—— 第123回総会演説抄録 ——

平成26年6月21・22日 於 名古屋市中小企業振興会館吹上ホール（名古屋市）

（第105回日本呼吸器学会東海地方学会
第8回日本サルコイドーシス/肉芽腫
性疾患学会中部支部会 と合同開催）

会 長 新 実 彰 男（名古屋市立大学呼吸器・免疫アレルギー内科学）

—— 一 般 演 題 ——

1. 関節リウマチのためインフリキシマブを使用中、急激に胸腹水の増加を認め、最終的に結核性胸膜炎・腹膜炎と診断した1例 °浅野俊明・大岩秀明・林信行・日比野佳孝・山田祥之（JA愛知厚生連江南厚生病呼吸器内）藤林孝義（同整形外）

当院整形外科に関節リウマチのため通院中の76歳女性。紹介される3年7カ月前からインフリキシマブ投与を開始。胸部CTで陳旧性変化と思われる所見があり、当初1年間isoniazidの内服を併用していた。今回、1カ月間の咳・痰を主訴に当科紹介。その際の胸部CTでは以前と著変なく経過観察した。その後、2週間で急激に胸腹水の増加と両下腿浮腫を認め、精査目的で入院。胸腹水を検査したところ、リンパ球優位の滲出液でありADAが86と上昇。後に培養でも結核菌陽性と判明し、結核性胸膜炎・腹膜炎と診断した。文献的考察を交えて報告する。

2. PET検診で発見された肺結核の1例 °黒部将成・富田康裕・井上正英・山下 良・伊藤源士・池田拓也

（市立四日市病呼吸器内）

症例は41歳女性。PET検診で左上葉にSUVmax=5.6の集積を認める陰影を指摘された。CTでは15mmの不整形の結節を認め、随伴陰影も認めた。抗生物質でいったん改善傾向を認めたがその後悪化し、気管支鏡検査を施行した。気管支洗浄液の結核菌PCR陽性、培養陽性で肺結核と診断。抗結核薬4剤による標準治療で治癒した。

3. 初期治療無効肺炎に対する高用量PZFX投与症例の検討 °森 秀法（羽島市民病呼吸器）内藤順子・渡邊康司・下條 隆・大角幸男（同循環器内）

パズフロキサシンメシル酸塩（PZFX）は、高用量投与が可能なニューキノロン系抗菌薬である。初期治療が無効であった市中肺炎/医療介護関連肺炎15症例に1000mg×2/dayを投与し、11例（73%）で治療効果が得られた。副作用として局所反応を2例、意識消失発作および肝機能障害を1例認めた。結核感染を除外したうえで、β-ラクタム無効、原因菌不明肺炎に投与可能な薬剤と考えられた。